何人のこどもが　がんになったら　原発とめるの？

# 映画『A2-B-◎』上映会

（エーツー・ビー・シー）

日本在住のアメリカ人監督イアン・トーマス・アッシュが
カメラにおさめた“フクシマ”

## A2-B-◎

Directed by IAN THOMAS ASH

フクシマで生きる子どもたちに、今何が起きているのか

**2016年4月16日（土）**
**仙台市シルバーセンター　６階第２研修室**

**■上映時間**

①13:00～14:20　②16:00～17:20

映画にも出てます！

□トークイベント　14:30～15:45
　椎名千恵子さん（ふくしま共同診療所運営委員）からのお話と
　フリートーク

■資料代：500円（高校生以下は無料）

□主催：ＮＡＺＥＮみやぎ（すべての原発いますぐなくそう！全国会議）
　E-mail　nazen_miyagi@yahoo.co.jp　090-8922-5418(立石)

★仙台市シルバーセンター★　仙台駅より北へ徒歩5分
仙台市青葉区花京院1の3の2　TEL022(215)3191

# 6年目のフクシマ、167名の子どもが甲状腺がん（疑い含む）、福島の切り捨て、分断を許しちゃいけない。

## 2011年3月11日 東日本大震災による福島原発事故発生。

その11日後、日本在住のドキュメンタリー監督イアン･トーマス･アッシュは、福島の取材を決意する。
今福島で、一体何が起きているのか？
その真実を知りたいという一心でアッシュは福島へ向かった。
福島を訪れたアッシュはカメラを片手に町の様子、人々の様子を撮り続けた。
中でも、外国人の自分に興味津々な様子で無邪気に声をかけてくる子どもたちに、アッシュは「兄弟」としての親しみを感じるようになった。
しかし、その子どもたちに、ある異変が起きていることを知る。
映画本編で、取材に応じた母親たちは、「県内で子どもたちを対象に行われた甲状腺検査で、A2判定を受ける子どもたちが2011年は28.2%だったのに、2012年は43～44%に増えている」と訴える。【A2】【B】【C】これは、甲状腺に発生したのう胞や結節（しこり）の大きさによる判定レベルを表している。
同時にアッシュは子どもたちをとりまく校庭や通学路の汚染除去の日常の実態もカメラにおさめてゆく。
まるで家族のポートレイトを撮るかのように愛情をもって、原発事故以降の福島を撮り続けるアッシュ。テレビでは報道されない福島の厳しい現実と、福島に住む人々の切実な訴えが、カメラを通して静かに映し出される――。
果たして、子どもたちの未来は安全なのか？
それでも、私たちは、何も起こっていないと見過ごすことができるのか――。

Marie Bergé for Visions du Réel ©2010

監督：イアン・トーマス・アッシュ

1975年生まれ。
アメリカ・ニューヨーク州出身。
初めて撮った長編ドキュメンタリー「the ballad of vicki and jake」(2006年)が、スイスのドキュメンタリー映画祭Nyon Visions du Réelでグランプリを受賞。2000年に英語教師として来日して以来、日本滞在歴は13年にも及ぶ。福島第一原発事故以降に撮影した「グレーゾーンの中（In the Grey Zone)」(2012年)も世界中で高く評価されている。

2013年／71分／日本映画／日本語･英語／©Ian Thomas Ash 2013 監督:イアン・トーマス・アッシュ 配給 映画A2-B-C事務局

www.a2-b-c.com

# ふくしま共同診療所「避難・保養・医療」の運動で、福島の怒りと共に立ち上がろう！

## 「避難・保養・医療」の3原則。

全国からのカンパで2012年12月に福島駅西口に開院した、ふくしま共同診療所。映画『A2-B-C』にも甲状腺エコー検査の場面で登場しています。「本当のことを知りたい」お母さんたちや、原発作業員、除染労働者…周りに言えない悩みを抱えて来院しています。

医師の立場からしても、放射能に対して最も有効な手段は「避難」。経済的理由や家族関係、仕事等、様々な事情で避難ができない人は、年間少なくとも30日以上は「保養」で福島県外の放射線量の低いところへ出ること。その後ろ支えとして「医療」があり、継続的な経過観察が大事であると、ふくしま共同診療所の医師は考えています。167名の子どもが甲状腺がん（疑い含む）と診断されてなお、「原発事故の影響とは考えにくい」と居直り続ける福島県立医大。

いまだ福島原発の収束の目途も立たない状況で避難区域を解除し、帰還と被曝を強制する日本政府。福島の怒りとともに「避難・保養・医療」の運動でこれらに立ち向かい、人間らしく生きられる社会をつくっていきましょう！

■ふくしま共同診療所■
福島市太田町20-7　佐周ビル1階
ＪＲ福島駅西口より徒歩5分
Tel 024-573-9335
www.fukushimacollaborativeclinic.jp
■福島診療所基金■
郵便振込口座 02200-8-126405
銀行口座　福島銀行本店 普通 1252841
福島診療所建設基金　代表　渡辺馨